

生命いのちの言葉

平成二十九年六月

神道は日用の間にあり

わたらいのぶよし
度会延佳

裏面もご覧下さい。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう

「美しい国ぶり」

生命いのちの言葉 六月

神道は特殊な道ではなく、毎日の行為が神のみにかなっているかどうかを反省し、精進する以外にない。

慶安三年（二六五）著『陽復記』の一節。また、同人著『太宮神道或問』（寛文六年著二六六六年）には、「日本国に生まれたる人は、心に得て、身に行はでは叶はざる道……日用の間、神道ならざという事なし」とあるのも同義である。

『神道百言』より

度会延佳（わたらいのぶよし）

元和元年（二六二五）〜元禄三年（二六九〇）。

江戸中期の伊勢神宮の神道学者。初め延良、後に延佳と改めた。号は愚太夫・直庵と号した。この二つの号をまとめると「愚直」で、延佳は人から「馬鹿正直」といわれても、まことしやかな人間になるよりはましとして「生正直」の二字を守り通したという。豊受大神宮の権禰宜に補し、元禄三年に歿した。享年は七十六。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>

